



ネットモラル研修

大人の知らない世界が どこまでも進み続ける



玉川大学教職大学院
堀田龍也 教授

子どもたちがネット上の問題に直面した時、どのように対処しているのでしょうか。そして私たち大人は、どのように指導したらよいのでしょうか。今回は、すぐに活用できる情報モラルの校内研修パッケージ「ネットモラル研修」を開発された玉川大学教職大学院 堀田龍也教授に語っていただきました。

生まれた時から、また物心ついたときから情報機器が日常的に使われている今の子どもたちは、私たち大人と違って、特別に操作方法を教わらなくても、なんなくケータイやインターネットを使うことができます。ゲーム機と同じように、分かんなくても子ども同士で教え合っていますし、驚くほど直感的に、苦勞せずに使っているように見えます。

しかし、その裏で、ケータイやインターネットにまつわる事故、事件は形を変えながら次々と起こり続けています。それは大人と同様に、子どもたちにもふりかかっているのです。また、子どもたちが関係した場合、被害は深刻です。子どもたちには、危険を事前に察知する能力や自分を守る力が十分には育っていませんし、なによりトラブルに対処する方法も身に付けていないからです。

これまで子どもたちは、限られた仲間と顔を合わせながら遊んでいました。例えばゲームもその一つで、周りに集まった何人かで楽しむものだったのです。しかし、インターネットが普及して、オンラインでつながるようになり、知らない誰かとゲームを楽しむという世界が出現したのです。子どもたちは限られた仲間の中の常識しか知らないにも関わらず、いとも簡単に知ら

子どもたちの将来を 見据えた教育を！

ない誰かと出会うのです。そのことを大人はどこまで知っているのでしょうか。技術の進化により新しい機器やツールが出ると、誰しも使ってみたくありません。子どもだからこそなおさらでしょう。マスメディアで取り上げられ、周囲の何人かが使い始めると益々その気持ちは高まります。使い始めてみると、多くの人が使っているという安心感からリスクを回避しようとする気持ちが薄れてきます。そしてある日突然、事件や事故が起こるのです。ある程度、リスクをイメージしていた人は、被害に遭いにくいはずですが、しかし、「便利だから」「楽しいから」としか考えていなかった場合や自分を過信している場合は、被害に遭う確率は断然高くなるでしょう。身を守ることも教えてもらえないまま情報社会の渦に投げ出された子どもたちが被害に遭いやすいのは当然のことです。

では、私たち大人はどうしたらいいのでしょうか。ある一定の年齢に達するまで情報機器を子どもたちだけに使わせないという方法もあります。しかし、それは問題の先送りに他なりません。急速に進展する情報社会において、使わせないという対応は一時的な効果こそあるでしょうが、それだけでは不十分です。今後、情報機器や、その他のツールはこれまでに以上に進化し、生活になくてはならないものになると予想されます。次の時代を担う子どもたちがこの先、情報機器を使わずに済むと考えられませんが、私たちは子どもたちの将来を見据えた教育をしなければならぬのです。指導しないのでよい使い方ができるようになるはずがありません。また、問題が表面化していなくても、実は大人が知らないうちに危険に直面しているかもしれないのです。

校内研修パッケージ

ですから、計画的、体系的な情報モラル教育が大切なのです。たとえば、「著作権」の問題を考えてみましょう。「著作権侵害にあたるので使ってはいけない」という指導と「どうすれば著作物が使えるようになるか」を考えさせる指導のどちらが有効でしょうか。「使ってはいけない」と指導することが必要な場合もあります。でも、その前に許諾の取り方や引用の範囲、出典の明示の仕方などを考えさせ、許諾を得る指導をする方がはるかに役に立つのではないのでしょうか。幼い時から他人の作品も自分の作品も大切に扱うことを指導していくことも必要なことです。

「問題が起きる前に指導すること」の大切さは分かっても、具体的にどのような指導をしたらよいかわからない先生方も多いでしょう。考えてみれば、私たちは、情報社会への接し方、対応の仕方を教えてもらったことがありません。だから分らないのは当たり前のことで、誰もが同じスタートラインに立っているのです。

ネットモラル研究会では、最初の一步を踏み出すきっかけになればと、すぐに使える情報モラル校内研修パッケージを開発しました。このパッケージには、スライドや配布資料、事例アニメーションなどのデジタルデータの他に研修の進め方、講師のシナリオなどがCD-ROMに同梱され、30分で研修できるように設計されています。また、事例アニメーションやスライドは、授業にも直接ご利用いただけます。ぜひご利用下さい。



校内研修パッケージ ネットモラル研修

体験版

<http://www.hirokyou.co.jp/netmoral>

お申込み

下さい



お早目にお申込み下さい!

「すべての教室でネットモラル教育の実現を。」を目指してより質の高い教材を研究しているネットモラル研究会。そのネットモラル研究会より、情報モラルの校内研修パッケージ「ネットモラル研修」が開発されました。より多くの学校で、すべての先生方にネットモラル教育を進めていただくためのパッケージです。お申込みの上、ぜひご活用下さい。

「ネットモラル研修」体験版の開発にあたって



題材は、2011年3月の東日本大震災の時に問題となった「チェーンメール」です。チェーンメールなど、一昔前のことだと考える方もいらっしゃるかもしれませんが、私たちがそうであったように、ケータイを持ちはじめたばかりの子どもたちの間で最初に起こる典型的な問題はチェーンメールなのです。「送ってはいけない」という指導だけでなく「何がチェーンメールか」「チェーンメールがどう影響を及ぼすのか」を考えさせることで、送られてきた情報を見極める力が身に付くと考えています。研修に活用できるだけでなく、授業にも使えます。ぜひご活用下さい。

企画・監修 玉川大学教職大学院 教授 堀田 龍也

「ネットモラル研修」体験版の構成 / チェーンメール



お申込み

「ネットモラル研修／チェーンメール」の無料体験版をご希望の方は、以下のホームページよりお申込み下さい。送料は無料です。

<http://www.hirokyou.co.jp/netmoral>

ネットモラル

検索

Click!!

※お申込みとお届けに関するご注意

なお、お申込みいただけるのは、全国教育機関（小学校、中学校、高等学校、教育委員会、教育センター等）とさせていただきます。また、ご提供は1教育機関1セットとさせていただきます、お申込みいただいた教育機関様の所在地へお届けいたします。

広教ニュースレター は、情報モラルや情報教育に関するニュースや授業実践、また最前線でご活躍されている先生方の寄稿や対談などを掲載するニュースレターです。

広島県教科用図書販売株式会社
〒733-0032 広島県広島市西区東観音町15番12号
TEL 082-291-1088 FAX 082-291-1082
URL <http://www.hirokyou.co.jp> E-mail info-hiroshima@hirokyou.co.jp

広教
HIROKYO 広島県教科用図書販売株式会社